

1 貧困の連鎖の根絶

■ 支援の必要な貧困家庭の子どもを早期発見し、適切な支援へつなぐため「子ども成長見守りシステム」のデータを活用し、学校との連携体制づくりを進めています。

見守り判定と支援の状況

- 子ども成長見守りシステムを活用し、家庭環境の変化や学力・自己肯定感の低下等の視点から、支援の必要性を判定しています。その結果を小・中学校へ示し、学校現場での支援について指示するとともに、支援の効果を継続的に見守っています。
- 子ども成長見守りシステムによって、就学援助の未申請や、学習支援（後述）の未活用など、支援が届いていないケースを把握しアプローチしやすくなりました。

高校との連携の開始

- 市内の高校をモデル校とし、日常的な情報交換を行う関係性を構築しています。また、支援が必要な生徒がいる場合、子ども成長見守り室が関係機関とともに高校でのケース会議に参加するなど、継続的な支援の実施に向けた取り組みをはじめています。

今後の取組

- 子ども成長見守りシステムで子どもの様子をモニタリングしながら、支援の効果を検証します。
- 高校との連携について引き続き取り組みを進めます。

■ 今年度から複数の学習支援をトライアル実施し、それらの効果を客観的に比較検証できるよう取り組んでいます。

● 放課後を活用した学習支援

自学自習（場所の提供）

補助員による見守り



自学自習×タブレット

小学校6校でそれぞれ異なる学習ソフトによる学習



塾講師の派遣

(株)トライグループの派遣講師を配置し、学習指導



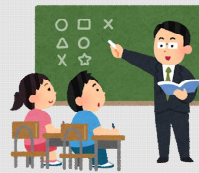
● 学力保障・学習支援事業



生活困窮世帯、不登校、長期欠席の児童生徒の中から、申請に基づいてNPO法人あっとすくーる または (株)トライグループによる学習支援や登校支援

● 塾代助成

生活困窮世帯の小学3年生を対象に塾や習い事などの費用を助成



今後の取組

- 各手法の効果について、ステップアップ調査等を活用し、学力や学習習慣の定着度合い、登校日数の変化など、多角的に比較検証を行います。

2 学校組織体制の再構築

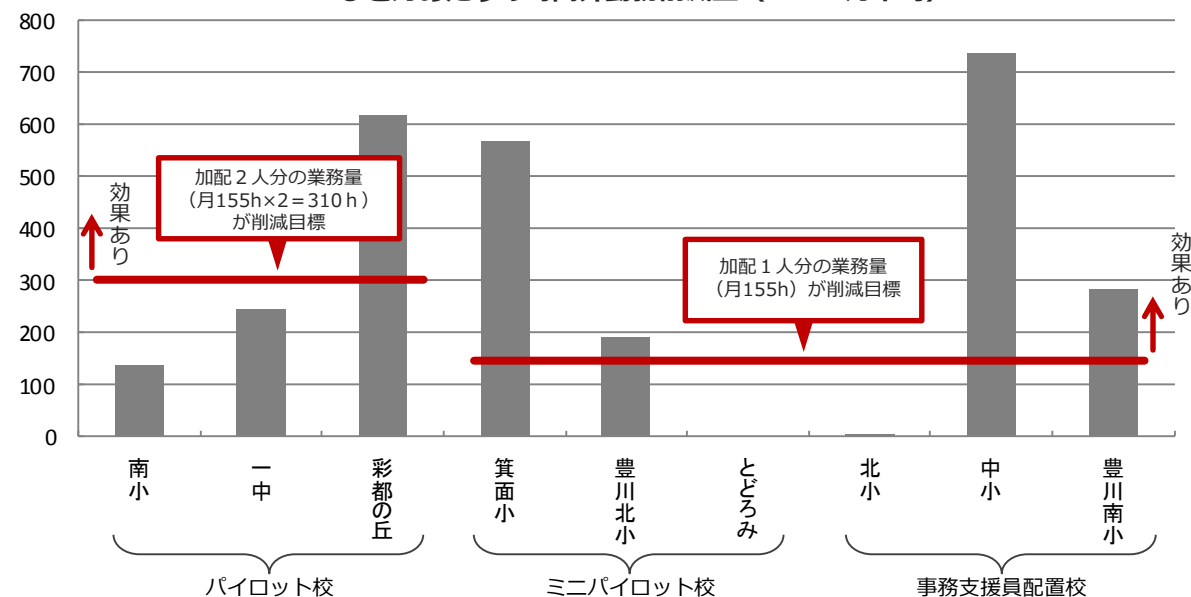
■ 「学校力向上パイロット校」「ミニパイロット校」で、ミドルリーダーを中心とした業務改善（時間外勤務の削減）に取り組んできました。また、今年度から、教材印刷や成績入力等を集約する事務支援員を、新たに3校に配置しています。

ミドルリーダーや事務支援員の配置効果

- 時間外勤務の削減状況を検証したところ、彩都の丘学園や箕面小学校では、ミドルリーダーが、学校全体の課題を把握するとともに、校務分掌の司令塔として業務を統括したり、会議の案件を事前に調整し会議回数や時間の圧縮を図ることで、時間外勤務が削減されました。
- 今年度から新たに事務支援員を配置した中小学校では、事務支援員が積極的に教材印刷や成績入力等の業務を集約したことで、時間外勤務が大幅に削減されています。

※一般校（加配のいない学校）の時間外勤務平均との差をもって、時間外勤務の削減量とみなしています

ひと月あたりの時間外勤務削減量（4～7月平均）



今後の取組

- 成果を上げつつある学校がある一方で、学校ごとに時間外勤務の削減状況にバラツキがあるのが実態です。そこで、時間外勤務削減の目標値に到達していない南小学校・第一中学校に代わり、豊川南小学校・第二中学校を新たなパイロット校に指定し、ミドルリーダーによる組織的な業務改善を進めます。
- また、事務支援員配置効果に差がある北小学校と中小学校については、事務支援員の配置換えを行い、検証を継続します。

■ 「学校でしかできない事務」以外の事務を集約する「学校事務センター」を設置し、学校徴収金業務等を行っています。

今後の取組

- 学校施設の修繕手続きや、これまで学校事務が行ってきた物品購入手続きなどの事務作業を学校事務センターに集約し、さらなる効率化をめざします。

3 すべての児童生徒の学力の向上

■ これまでの議論を踏まえ、習熟度別指導の検証をさらに深めていくため、今年度も昨年度と同様の取り組みを継続しています。

- ・ 習熟度に応じた適正な学級分割を行うことを徹底しています。
- ・ 学級の分割方法による学習効果を、国の学級規模検証事業と比較しながら検証します。

昨年度の検証結果 1

※以下、小学校算数及び中学校数学のステップアップ調査をもとに分析しています。

分割方法	学力が向上した子どもの人数の割合	
	小学校	中学校
1学級3分割	58.7%	実施校なし
1学級2分割	47.3%	54.0%
2学級3分割	42.6%	実施校なし
一斉授業(分割なし)	42.0%	43.6%

- 小学校においても、中学校においても、一斉授業よりも学級を分割して授業を行う方が、学力の向上率が高くなることがわかりました。
- また、小学校においては1学級3分割が一番効果が高い結果となりました。

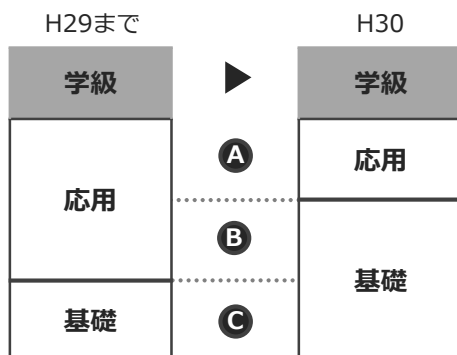
昨年度の検証結果 2

分割方法・クラス		学力が向上した子どもの人数の割合	
		小学校	中学校
1学級3分割	応用	54.1%	実施校なし
	標準	77.3%	
	基礎	43.8%	
1学級2分割	応用	46.7%	54.8%
	基礎	48.5%	52.1%
2学級3分割	応用	45.0%	実施校なし
	標準	36.8%	
	基礎	46.0%	
一斉授業(再掲)		42.0%	44.0%

- 検証結果 1 を、分割後のクラス別に分析しました。
- 小学校においては、2学級3分割の標準クラスを除くすべてのクラスで、一斉授業と比較して学力の向上率が高くなることがわかりました。
- 中学校においては、1学級2分割の応用、基礎いずれのクラスにおいても、一斉授業と比較して学力の向上率が高くなることがわかりました。

昨年度の検証結果 3

豊川北小学校において、平成29年度と平成30年度とで、1学級2分割をするときの人数比を変えて検証しました。

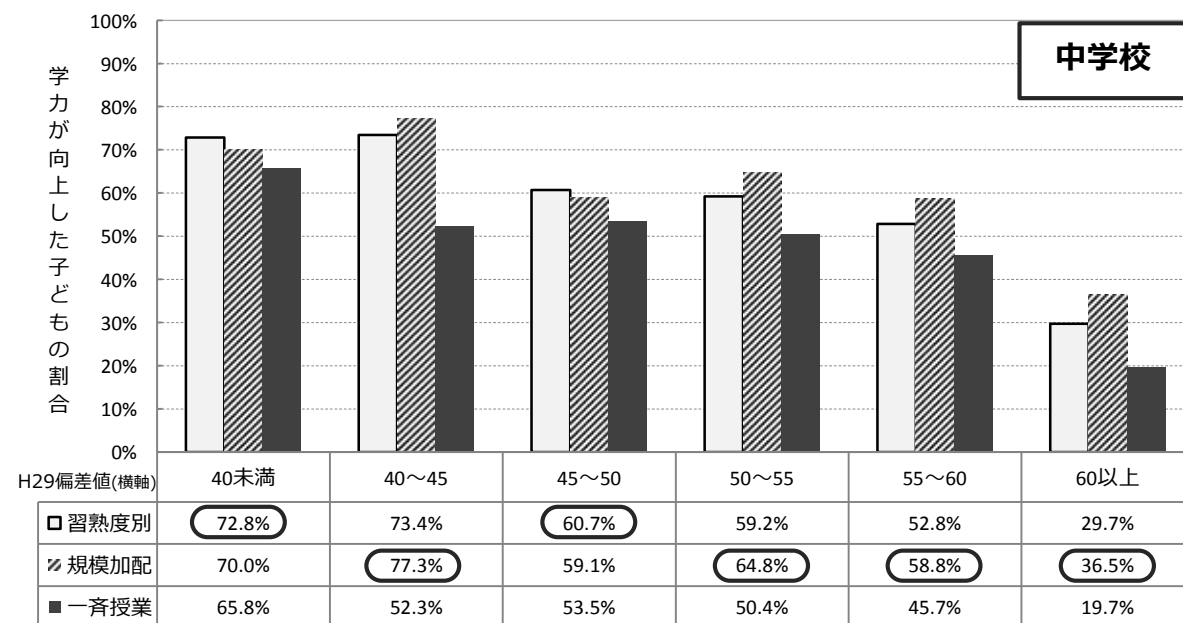
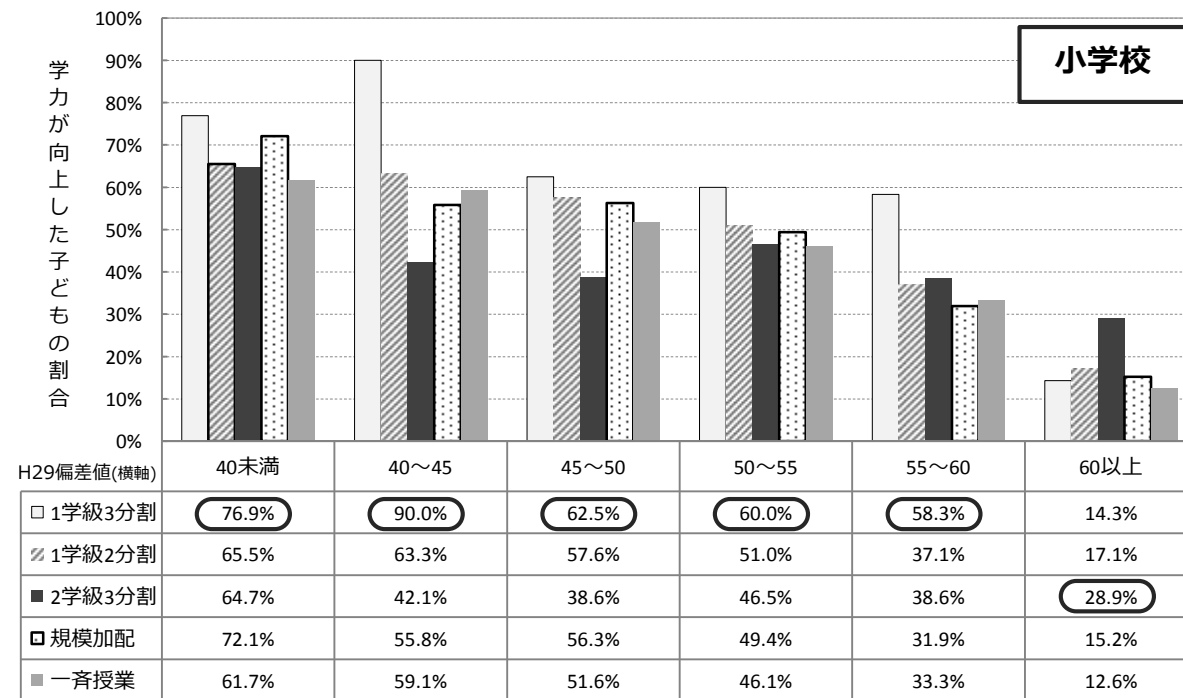


層	学力が向上した子どもの人数の割合	
	H29	H30
A	59.6%	40.6%
B	21.4%	53.1%
C	50.0%	64.8%
全体	48.1%	52.0%

- B層とC層の子どもたちは平成29年度と比較して、学力の向上率が高くなりました。
- この結果から少数の同一学力集団で学習するよりもある程度の人数で多様な考え方に触れるほうが学習効果が高いのではないかと示唆されます。

昨年度の検証結果 4

- 前年度の学力と学習形態との関係を分析しました。
- 小学校では、おおむねどの学力層でも1学級3分割に効果がありました。中学校では、学級規模加配の方がより高い効果が出た学力層もありました。



今後の取組

- ▶ 昨年度の検証結果をより信頼度の高いものとするために、今年度も引き続きデータを蓄積し、学力向上に資する指導方法や授業形態の分析を進めます。

3 すべての児童生徒の学力の向上（つづき）

■ 授業力の高い教員を見える化することが昨年度からの継続課題ですが、同時に、見える化した後にも、以下のとおり整理すべき課題があります。

- ・ 授業力の高い教員は、学校組織の中でどのような立場で、どのような役割を担うか
- ・ 授業力の高い教員には、どのようなキャリアパスが用意されるべきか
- ・ 授業力の向上のために、各学校はどのような取り組みをすべきか。そのために、どのような組織体制が必要か
- ・ 現在養成を目指している「教育専門監」は、各学校の授業力向上の取り組みと、どう関わっていくか
- ・ より効果的に若手教員を育成するにはどうすべきか

■ 上記の課題整理と並行して、教員への指導・助言に必要なスキルを習得する「指導力向上研修」を実施しています。教育委員会が選出した中堅教員が、若手教員の育成スキルを高めることができるように取り組んでいます。



今後の取組

- 課題整理を行い、それぞれの取り組みが、有機的に機能するよう体制構築を進めます。

■ 小中一貫教育の将来像を模索しています。

- ・ 本市の小中一貫教育は、「施設一体型」と、離れた場所にある小中学校との「校区連携型」の両輪で進めていますが、校区連携型の成果の追求が十分にできていないのではないかと反省があります。
- ・ 市内の全ての学校を施設一体型小中一貫校にできるわけではないことを考えると、「施設一体型」でも「校区連携型」であっても、子どもたちが同じように小中一貫教育の効果を享受できるような小中一貫教育の“理想形”を見出したいと考えています。

今後の取組

- 小中一貫教育の“理想形”について、検討を深めていきます。

4 児童生徒・青少年の居場所づくり

■ 子どもたちにとって貴重な異年齢交流の場・地域コミュニティへの入り口となるこども会活動の活性化を図っています。

- ・ 各こども会が自身の活動に専念できることを目指し、箕面市こども会育成協議会が解散されました。今年度から市教育委員会がドッジボール大会などの行事運営を行うことで、こども会役員の負担を軽減しています。
- ・ こども会への加入促進の取組として、全児童を対象にちらしの配布を行いました。また、一部の校区では、誰でも参加できる勧誘イベントを行っています。市教育委員会がそのちらし作成や配布をサポートしました。
- ・ 役員の負担軽減や、こども会への加入促進に役立つ情報を、市教育委員会から発信しています。
- ・ 市教育委員会が直接こども会役員からの相談に乗り、新規立ち上げのこども会に対しては、安定的な運営ができるよう支援を行っています。

今後の取組

- 引き続き、こども会活動の活性化を図っていきます。

5 子育て支援と外出促進

■ 子育て中の保護者の要望や満足度などを把握するための聞き取りを行っています。

- ・ 子育て支援センター利用者や乳幼児健診受診者に対し、子育て支援策等の要望を聞き取っています。
- ・ その中には、「乳幼児が遊べる場所を拡充してほしい」、「雨の日や暑い日でも遊べる室内の遊び場を増やしてほしい」、「子どもを遊ばせながら、親もリラックスできるようなスペースがほしい」など、親子で外出する際の要望が多く寄せられています。

■ 親子で楽しく過ごせる場の拡充に取り組んでいます。

- ・ 令和2年度の東図書館のリニューアルオープンにあわせキッズコーナーを設置できるよう準備を進めています。
- ・ 市内商業施設のキッズスペースを一般に開放していただけるよう働きかけを継続しています。
- ・ 公園遊具の更新にあたり、人気の高い遊具や、地域でのニーズ差があるかどうかを把握するため、乳幼児がいる親や小学生にアンケートを実施中です。



今後の取組

- 引き続き子育て中の保護者のニーズを聞き取り、子育て施策の充実を図ります。